

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ②



スカイベリーの生育調査



スカイベリーの品質・重量調査

スカイベリーを日本ブランドに

安定生産へ栽培技術を学ぶ

私がスカイベリーと

出会ったのは農業大学
校に入学してからでし
た。それまでも、スカ
イベリーという名前を
聞いたことはありません
たが、イチゴの品種の

一つという程度の認識でした。

我が家はとちおとめを栽培する専
業農家で、祖父を中心に家族でイチ
ゴ生産に取り組んでいて、私は、家
の農業を継ぐために農大に入学し、
イチゴについて学ぼうちにスカイベ
リーという品種の奥深さに感銘を受

けました。

スカイベリーは、とちおとめに次
ぐ栃木県を代表する品種として作出
されました。とちおとめは、栃木県
が持っていた種苗法上の許諾期間が
既に切れていて、今や栃木県以外で
も数多くの生産者が栽培するように

なり栃木県のイチゴ生産量日本一と
いう地位が脅かされています。この
地位を保つためには新品種スカイベ
リーを全国的に売り出していかなけ
ればならないと強く感じています。

とちおとめが食味を重視している
のに対し、スカイベリーは目を見張
るほどの大きさと甘さを武器とし、
とちおとめに替わる栃木のブランド
としての魅力を備えています。2年
ほど前から一般栽培が始まったスカ
イベリーですが、新たな品種のため、
高品質な果実を安定して生産する技
術が生産者全体に定着するまでには
至っていないのが現状だと聞いてい
ます。そこで、私は農大でスカイベ
リーの栽培について学び、確かな技
術力を身につけ、家の経営にスカイ
ベリーを取り入れ、また、地域全体
の栽培技術のレベルアップにも取り
組めたら良いかと考えています。

そして、高品質なスカイベリーを
安定生産して、スカイベリーがとち
おとめや他県のブランドイチゴを超
える最高のイチゴと認められるよう
な生産者になるよう努力して行こう
と思います。

(園芸経営学科野菜専攻・福田 春太)

楽しい最新農業機械の操作実習

8月に農大で、畑の土づくりや排水対策の作業機を体験操作する機会がありました。100馬力を超える新型トラクターに4連プラウを実際に装着して運転しましたが、農大の普段の授業では体験できないことであり、排水対策は自分の家でも収量を上げるために必要な技術なので学ぶことが多い授業でした。

私は、卒業後に県北で約40haを作付けする実家で農業をするため、現在農業大学校で稲作を学んでいます。父親の機械好きの影響で小さい頃から農業機械の修理を手伝ってきたことで、農大の実習で機械に触れることはすごく楽しいと感じています。今後農業経営は、機械を上手く活用して大規模化し、生産性の向上

や効率化を進めることが必要と考えています。学生のうちに色々な機械操作を体験できる事はすごくうれしいことです。

今、農大にある機械は古くて作業中に限って故障します。それはそれで勉強になる面もありますが、それは別に大規模化や生産性を高めるための最新機械の操作や技術を学べることがあります。

なったのは、去年農大と農機メーカー、全農との間で、農業機械の操作実習や安全対策等を内容とした「連携協定」を締結したからだと思います。

この協定により、校外学習として、12月に茨城県のスガノ農機の工場、2月にはクボタの展示会を視察しました。我が家で使っている機械について、直接担当の人に質問ができ、教室とは違う学習ができました。また、10月の無人ヘリ競技会見学に

連携協定に基づく土づくり排水対策機械操作実習

校外から学ぶ ～農業機械メーカー等との連携～



新型田植機の操作実習

は授業の関係で行けませんでしたが、卒業後は免許を取って請負もしてみたいと考えており、来年はぜひ参加したいと思っています。3月には新型田植機や直播機の操作実習も計画されているというので今から楽しみにしています。

農業機械は大変高価なもので、今年田植機を買うという父親を見ると「良く買うなー」と思ってしまうですが、自分で整備して長持ちさせる技術も今後身につけていきたいと考えています。

(農業経営学科・村田大地)

農業大学校ホームページ
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/index.html>